

「(500)日のサマー」 ★★★

2009(平成21)年11月10日鑑賞  
角川映画試写室>

監督：マーク・ウェブ  
トム・ハンセン(グリーティングカード会社で働く青年) / ジョセフ・ゴードン＝レヴィット  
サマー・フィン(秘書として入社してきた女性) / ズーイー・デシャネル  
マッケンジー(トムの親友) / ジェフリー・エアンド  
レイチェル・ハンセン / クロエ・グレース・モレッツ  
ポール(トムの親友) / マシュー・グレイ・ガブラー  
ヴァンス / クラーク・グレッグ  
アリソン / レイチェル・ポストン  
オータム(面接でトムと一緒にになった女性) / ミンカ・ケリー  
2009年・アメリカ映画・96分  
配給 / 20世紀フォックス映画

<恋人?それとも友達?それを区別するものは?>

女同士の友達関係は成立しにくいらしいが、男と女が良好な友達関係でいる姿はあちこちで見かけるはず。つまり、男と女がセックスの関係を超越し、互いに相手を性的対象としてみることもない友達関係は明確に存在しているわけだ。さらに職場における社長(男)と秘書(女)、上司(男)と部下(女)というスタイルで、互いに相手を性的対象としてみることもない良好な男と女の関係は存在するし、最近では女性上司と男性部下という良好な職場での関係も多い。

サマー(ズーイー・デシャネル)はグリーティングカード会社の社長秘書として入社してきた魅力的な女性だから、言い寄ってくる男は多いはず。建築家を夢見つつそこで働いていたトム(ジョセフ・ゴードン＝レヴィット)がそんなサマーに一目惚れしてしまったのは当然だ。2人の接点ができたのは、エレベーター内でトムのヘッドフォンから漏れる音を聴き、サマーが「私もザ・スミスが大好き」と微笑んだためだ。これによって2人は急接近することになりトムは有頂天だが、そこでサマーから宣言されたのは「恋人なんて欲しくない。誰かの所有物になるなんて理解できないわ」ということ。そして「私のことが好き?だったら友達になって」ということ。こりゃ言ってみれば「セックス抜きのお付き合いしかできません」宣言だが、とりあえずトムがそれを(それでも?)了解したのは当然。さらにサマーはトムに対して、「これまでも私の言い分を了解した男はたくさんいたが、どこかの時点で不満を爆発させて別れてしまった。あなたは大丈夫?」と痛いところをついてきたが、それに対するトムの答えは「僕は大丈夫」というもの。しかし、ホントにトムは大丈夫?

私はサマーの言い分をそんな風に理解し、その後の成り行きを心配したが、しばらくしてサマーの言う、「恋人ではなく、友達でいましょうね」のセリフは私の理解とは全く異なることに気付いたから、己の理解度の無さに唖然!

<気楽な関係とは?気楽なベッドインとは?>

本作はトムとサマーの500日に及ぶ恋模様を紹介するもの。2人が世界的に有名なスウェーデン発祥の大手家具店IKEAに行き、ショールームのダイニングで料理づくりの真似事をしたり、展示されているベッドに寝そべて語り合ったりという「新婚夫婦ごっこ」をしたのは34日目だが、この日トムには大きな転換点訪れた。つまりその直後に、「真剣に付き合う気はないの。それでもいい?」と聞くサマーに対して「いいよ、気楽な関係で」とトムが答えたところ、サマーは積極的にトムの部屋を訪れ、それまでのキスの関係を越えて気楽にベッドインすることになったわけだ。えっ、これがサマーのいう友達関係?こりゃとても私には理解できない、異次元のもの・・・?さらに109日目に、トムはサマーの部屋に招き入れられたうえ、ここでも気楽なベッドインを。

こうなるとトムが、自分はサマーにとって特別な男だと思いついたのはある意味当然で、仕方ないところだ。ところが、それが大きな誤解だったと気付かされたのは、259日目にバーでサマーに言い寄る男をトムが殴った後の意外な展開。それはあなた自身の目で確認してもらいたい、いかにも「俺はサマーにとって特別な男だ」という立ち居振る舞いが、サマーは絶対許せなかったらしい。そのため2人はここで完全に行き違うことに。これではトムもワケがわからないだろうが、私だってサマーの気持がサッパリわからない・・・。

<恋は運命?それとも偶然?それが争点?>

私は弁護士稼業を35年間も続けているから、人の話(争い事)を聞く場合、「争点は何か」ということを整理するクセがついている。裁判長が判決を書く場合も、まず当事者の主張を整理し、争点を明らかにすることが第1の仕事となる。そんな視点でみると、ある意味でロマンティックコメディとも言える本作の争点は、恋は運命?それとも偶然?ということのようだ。

ストーリーの展開上、トムは女性にウブで恋を真面目に考えるタイプ、そして運命の出会い、運命の恋人を信じていることがよくわかる。それに対して、サマーはハナからそんなものを信じていないばかりか、そもそも男女の恋そのものを否定しているように私には思われる。もっとも、そうかといってサマーは男女間のセックスを否定するつもりは全くないようだ。そのことは、一緒にDVDで観た変態的なセックスプレイを、友達となったトムを相手に積極的に試してみようという行動を見れば明らかだ。

もっとも映画のラストが近づくと、トムはそんなサマーから「私、結婚するの」という話をトムは聞かされることになるから、私にはサマーの恋愛観、友達観は不可解。サマーの説明によればサマーが結婚するのは運命の人との出会いや、結婚相手を運命の恋人と考えたためではなく、単なる偶然の出会いによる偶然の結婚だということらしいが、この説明も私には不可解。つまり、運命?それとも偶然?という争点の設定自体が、そもそも私にはよくわからないということだ。

<こんな女にはホレない方が?それとも逆利用?>

サマーは美人でキュート、そして話も楽しいから男にモテるのは当たり前。そんなサマーにホレた場合、ホレた方の男に弱みがあるのは当たり前だが、サマーが男に要求するのは「恋人ではなく、友達でいようね」ということだけ。このサマーの言葉を、私のように「セックス抜きの男女関係」宣言と捉えると、ある時点から男は悶々としてくるかもしれない。しかしサマーの場合はそうではなく、気楽にセックスするのはオーケーというのがミソだ。

そんなサマーの価値観を理解できないトムがサマーにホレると、トムのそれまでの価値観がメチャメチャになるのは当然。だからトムのような真面目な男は、サマーのような女にはホレない方が安心かも。しかし目を転じて考えてみれば、そんなサマーの価値観を逆利用しそれに乗っかれば、男にとってこんなありがたい男女関係はないのでは?

<婚カツ諸君の教科書に最適だが・・・>

私も大学時代たくさんの恋愛を経験したが、その中で、この交際は恋人として?それとも友人として?ということにこだわった経験がある。ずっと後になると、そんなことにこだわり、手を出さなかった自分がバカみたいに思えるが、それはそれで私がトムのようにウブで純真だったことの証明?

それはともかく、若い男女の出会いと恋への発展の形は千差万別。したがって、トムとサマーの関係だって、あれだけのセックスを伴っていれば、それを友達と評価するのはサマーだけで、トムやトムの友人たちそして世間がトムとサマーは恋人関係と評価するのは当然だ。したがってトムの場合は、サマーの言い分どおり自分をサマーの恋人ではなくサマーの友人だと位置づけて、結婚さえしようとしなければいいだけ。そう考えてみれば、前述のようにそりゃ男にとってベストの関係かも?

日本における昨今の婚カツ事情は私にとって嘆かわしい限りだが、その原因の大半は若い男女のコミュニケーション能力不足にある。それを少しでも解消するためには誰かが応援して男女の出会いをセッティングすることも大切だが、それ以上に若い男女一人一人が恋のあり方を勉強することが大切だ。そのためには古今東西の恋愛をテーマとした名作全集を読むのが1番だが、てっとり早く勉強するには本作は便利。もっとも本作は近時のケータイ小説のように単純な恋愛模様ではないから、婚カツ諸君の教科書としては、中級ないし上級編?